

『一代五時繼図』と『注法華経』

— 女人成仏を端緒として —

関 戸 堯 海

はじめに

『一代五時繼図』（定本番号二九）は『三宝寺本』『録外御書』等に収録されるが、真蹟は伝わらず、著作年次も不明であり、『一代五時鷄図』よりもさらに後人の整理が加わっているとみることが出来る。一代五時とそこに属する各宗派が拠り所とする經典および祖師などを図示するが、あわせて「開会的事」「是諸経之王と云う事」などの項目を立て、関連する経論疏を引用している。このため経論疏の要文の引用は、標題の内容と直接関係しているので、『注法華経』に注記される要文と対照してみることは、要文注記の目的を検証するための一つの方策であると考えられるものである。

薬王菩薩本事品の女人往生段について

『一代五時繼図』の「一 四十余年諸経論嫌女人」と標される部分には

① 華嚴経云、女人地獄使能斷佛種子。外面似菩薩内心如夜叉文。

『一代五時繼図』と『注法華経』（関戸）

『一代五時繼圖』と『注法華經』（関戸）

- ② 又云、一見^{ヒレハ}於女人^ヲ能^ク失^フ眼功德^ヲ。縱^ヒ雖^レ見^ト大蛇^ヲ不^レ可^ク見^ル女人^ニ文。
- ③ 銀色女^ニ經^云、三世諸佛^ノ眼墮^ハ落^{スト}於大地^ニ。法界^ノ諸女人^ハ永無^ク成佛^期ニ文。
- ④ 華嚴經^ニ云、見^ハ女人^ヲ眼墮^ニ落^ス於大地^ニ。何^ニ況^ヤ犯^ス一度^セ墮^ツ三惡道^ニニ文。
- ⑤ 十二佛名^ニ經^云、假使遍^{スル}法界^ニ大悲諸菩薩^ノ不^レ能^ク降^ス伏^ス彼女人^ノ極業障^ニニ文。
- ⑥ 大論^ニ云、女人見^ノ一度^ナ永結^ク輪迴^ノ業^ヲ。何^ニ況^ヤ犯^ス一度^ヲ定墮^ス無間獄^ニニ文。
- ⑦ 往生禮讚^ニ云、女人^ト根缺^ト二乘種^ト不^レ生^セニ文。
- ⑧ 大論^ニ云、女人惡根本^也。一犯^ヒ五百生^ハ彼所生^ノ處輪^ニ迴^ス六趣^中ニ文。
- ⑨ 華嚴經^ニ云、女人大魔王能^ク食^ス一切^ノ人^ヲ。現在^ニ作^ク纏縛^ト後生^ヲ為^ス怨敵^トニ文。

(定二四二七―八頁)

とあって(①―⑨)の数字は筆者が付したものの、爾前の諸經に女人の成仏が否定されてきたことを示す經論疏として『華嚴經』『銀色女經』『大智度論』などが引用されている。これを『注法華經』の注記と対照してみると法華經卷七に収録される藥王菩薩本事品第二十三と共通項を見出すことができる。

『守護国家論』「大文第六明依法華・涅槃行者用心者」の「第二明但唱法華經題目計可離三惡道者」に

問^フ云、見^ル華嚴・方等・般若・阿含・觀經等^ノ諸經^ニ勸^ム兜率[・]西方[・]十方淨土^ニ。其上見^ル法華經^ノ文^ニ亦勸^ム兜率[・]西方[・]十方淨土^ニ。何^ニ遠^シ此等^ノ文^ニ但勸^ム此瓦礫荆棘之穢土^ニ乎。答曰、爾前淨土久遠實成釋迦如來所現淨土^ニ實皆穢土也。法華經亦方便壽量^ニ二品也。至^テ壽量品^ニ定^ム實淨土^ニ時、此土即定^メ淨土^ニ了^ス。(定一二九―三〇頁・真蹟曾存)

とあり、華嚴・方等・般若・阿含・『觀無量壽經』などの諸經をみると、それぞれに弥勒菩薩の兜率天や阿彌陀如来の西方淨土や十方の淨土への往生を勧めており、法華經にも兜率天や西方淨土などへの往生を勧めているので、どうしてあえてこの煩惱に満ちた娑婆世界を淨土として勧めるのかと設問し、壽量品に來たつて眞実の淨土を定める時、娑婆世界こそが眞実の寂光淨土であると決定されたと答えている。この質問の中で法華經に西方淨土を勧めているというのは、藥王菩薩本事品に「若し如来の滅後 後の五百歳の中に、若し女人あつて是の經典を聞いて説の如く修行せば、此に於て命終して、即ち安樂世界の阿彌陀仏の大菩薩衆の圍繞せる住処に往いて、蓮華の中の宝座の上に生ぜん」を指すものであるが『注法華經』をみると、この經文の周辺に女人成仏に関する注記が集まっている。

特に「一代五時繼図」と対照してみると（一）内の巻数と数字は山中喜八編著『定本注法華經』の番号、

〔七卷九四〕『華嚴經』（一代五時繼図）の①

〔七卷九五〕『華嚴經』（同②）

〔七卷九八〕『銀色女經』（同③）

〔七卷九六〕『華嚴經』（同④）²

が共通することがわかる。

『藥王品得意抄』では藥王菩薩本事品の女人往生の段について、女人には五障・三従の成仏を妨げる障害があることを挙げ、『銀色女經』を引用する。

女人往生成佛段。經文云 若如来滅後 後五百歳中 若有女人一聞是經典 如説修行於此命終 即往安樂世界阿彌陀佛大菩薩衆圍繞住處 生蓮華中宝座之上等云云。問曰 此經此品殊女人往生説有何故乎。答

『二代五時繼図』と『注法華經』（関戸）

『一代五時繼圖』と『注法華經』(関戸)

曰、佛意難測、此義難決歟。但加一料簡、女人衆罪根本破國之源也。故内外典多禁之。其中以内外典論之三從。三從申ニシタカウト云也。一、幼從父母、嫁從夫、老從子。此有三障、世間不自在。以内外典論之有五障。五障者、六道輪回間、如男子不作大梵天王。二、不作帝釋。三、不作魔王。四、不作轉輪聖王。五、常留六道、出三界不成就佛。超日月三昧經文也。銀色女經云、三世諸佛眼墮落於大地、法界諸女人永無成佛期等云云。(定三四一頁・真蹟断片)

また『法華題目鈔』には『華嚴經』『涅槃經』を挙げて(これらの文は『注法華經』にもみえる。(七卷九四)『華嚴經』(七卷九九)『涅槃經』一切大衆所問品)、

内典の中には初成道の大法たる華嚴經には女人地獄使。能斷佛種子。外面似菩薩、内心如三夜叉文。雙林最後の大涅槃經には、一切江河必有回曲。一切女人必有詔曲文。又云、所有三千界、男子諸煩惱合集為一人、女人業障等云云。大華嚴經の文に、能斷佛種子と説れて候は女人は佛になるべき種子をい(魚)れり。(定四〇〇頁・真蹟断片)

と法華經以外の諸經に於いて女人成仏が否定されてきたことを示し、さらに、

五障三從と申て、五のさはり三したがふ事あり。されば銀色女經には、三世の諸佛の眼は大地に落とも女人は佛になるべからずと説れ、大論には、清風はとると云ども女人の心はとりがたしと云へり。(定四〇一頁・真蹟断片)

と述べ、女人が成仏を否定される理由の一つとしての五障と三從を挙げ、ここでも『銀色女經』を引用して、法華經だけが女人成仏を説くことを明らかにする。

このように薬王菩薩本事品の女人往生の段をめぐって、『二代五時繼図』および『守護国家論』『法華題目鈔』『薬王品得意抄』に引用される経論疏が『注法華経』と共通することによって、『注法華経』の薬王菩薩本事品には、女人往生に関する要文が列記されていると推察できる。そのため、法華経の本文に関連する要文を集めるという『注法華経』の注記の特徴についての一端を確認することができる。

薬王菩薩本事品の後五百歳について

『二代五時繼図』には「一可広宣流布法華事」と標して

傳教大師守護章云、正像稍過已未法太有近。法華一乘機今正是其時。何以得レ知。安樂行品云、末世法滅時文。秀句下云、語レ代則像終末初。尋レ地唐東。羯西。原レ人則五濁ノ生。鬪諍之時。經云、如來現在猶多怨嫉況滅度後。此言良有所以也文。

道暹和尚輔正記云、法華教興。權教即廢。日出星隱。見レ巧。知レ拙文。

法華経、安樂行品云、一切世間多レ怨難レ信文。

薬王品云、我滅度後後五百歳中廣ニ宣流ニ布。於閻浮提無レ令ニ斷絶ニ文。

勸發品云、我今以ニ神通力ニ故守ニ護是經。於ニ如來滅後閻浮提内ニ廣令ニ流布。使レ不ニ斷絶ニ文句一云、非ニ但當時獲ニ大利益。後五百歳遠沾ニ妙道ニ文。

一乘要決云、日本一州圓機純一。朝野遠近同歸ニ一乘ニ。緇素貴賤悉期ニ成佛ニ。

安然廣釋云、彼天竺國有ニ外道不レ信ニ佛道。亦有ニ小乘不レ許ニ大乘。其大唐國有ニ道法不レ許ニ佛法。亦

『二代五時繼図』と『注法華經』（関戸）

有テ小乘ニ不レ許ニ大乘ヲ。我カ日本國ニハ皆シテ信ニ大乘ヲ無レ有ニ一人トシテ不レ願ニ成佛ヲ。

瑜伽論云、東方有ニ小國ニ唯リ有ニ大乘ノ機ニ。豈ニ非ニ我國ニ文ニ。〔定二四三三―四頁〕

とあるが、ここで薬王菩薩本事品の「我が滅度の後、後の五百歳の中、閻浮提に広宣流布して断絶せしむることなかれ³」という経文に関連して、「法華文句」の「後の五百歳、遠く妙道に沾わん」の文を引用するが、これも「注法華經」薬王菩薩本事品の「後五百歳中広宣流布」の経文の部分に注記されているものである（七卷一〇四）。「法華文句」一上）。この点によっても、法華經本文の内容に関連する要文を注記するという「注法華經」の注記の特徴をよく理解することができる。

「無量義經」との接点

『二代五時繼図』には『注法華經』の開經、すなわち「無量義經」の行間に注記される要文と同じ文もみえ、標題によつて引用の意図に共通性を見出すことができる。

①説法品第二

『二代五時繼図』では「一念仏可末代流布事」（二四四二頁）に「無量壽經」「往生礼讚」「西方要決」「法華玄義」などが引用されるが、そこに『像法決疑經』から

像法決疑經云、常施菩薩徒ニ初成道ニ乃至涅槃於其中間ニ不レ見ニ如來ノ説ニ一句ノ法ヲ。然ルニ諸衆生見レ有ニ出沒ノ說法ノ度

人ノ文ヲ。（定二四四二頁）

と引用される文は、『注法華經』の「無量義經」說法品第二に注記される文と同じである（開經六九）『像法決疑經』。『注法華經』では「無量義經」に「四十余年未顯真実」（開結二〇頁）「次説方等十二部經摩訶般若華嚴海空宣説菩薩歷劫修行」という經文の付近に、經文の内容に直接関連していると思われる要文が集まっているが、『像法決疑經』もその中の一つである。特に『像法決疑經』は「菩薩の歷劫修行」に關連して、法華經こそが末代に流布すべき正法であることを明らかにするための注記の一つと考えられるので、『二代五時繼圖』で「末代に流布すべき法は念仏なのであるか」という主題のもと引用されるのと同基軸にあるといえる。

②十功德品第三

『二代五時繼圖』に「一傳教大師一期略記云」と標題がある部分に引用される『摩訶止觀』『摩訶止觀弘決』の文も、『注法華經』の「無量義經」十功德品第三に注記される文と共通する。

〔開經九六〕『摩訶止觀』五下

〔開經九七〕『摩訶止觀弘決』五之五

止觀五云、是故二夜不レ説一字、文。（中略）

弘五云、依何密語、作如レ此説。佛言、依二密語、謂自證法及本住法。然一代施化豈無權智被物之教。但、約此二末、曾有説故、不説耳文。（定二四四五頁）

これらの注記についてみると（開經九六）『摩訶止觀』（開經九七）『摩訶止觀弘決』は「無量義經」で「十功德力」を述べる中で第四の王子不思議力について「諸仏如来、常に是の人に向かつて而も法を演説したまわん。是の人聞

き已つて悉く能く受持し随順して逆らわじ。転た復人の為に宜しきに随つて広く説かん⁵とあるのに関連して「不説一字」⁶（釈尊の証得した真理は文字言語にはできないとする考え）についての要文を集めた中の一つではないかと推察される。

以上のように十功德品においても、『二代五時繼図』の引用のいくつかに『注法華經』と同基軸にある例が存在することを確認できる。

おわりに

『二代五時繼図』には薬王菩薩本事品の女人往生についての説示に関連して、『華嚴經』『銀色女經』などが引用されるが、これらの要文が『注法華經』の薬王菩薩本事品の注記と共通することがわかった。さらに、女人往生に関する共通項を端緒として、『二代五時繼図』の引用と『注法華經』の注記の共通項を検証してみたところ、他にも薬王菩薩本事品の「後五百歳」および「無量義經」などの接点が見出された。このことによつて、法華經の本文に関連する要文を一箇所にまとめて注記するという『注法華經』の特徴の一端についてあらためて確認することができたと思われる。

註

※文中引用の日蓮聖人遺文は立正大学日蓮教学研究編『昭和定本日蓮聖人遺文』に拠り（定〇〇頁・真蹟の存在有無⁷）と表記した。

(1) 『真調妙法蓮華經並開結』五二七頁（以下「開結」と略称する。）

- (2) ここに示される『華嚴經』『銀色女經』はともに原典にこの文をみない。山中喜八編著『定本注法華經』索引を参照。
- (3) 『開結』五二九頁。
- (4) 『開結』二二二―二三頁。
- (5) 『開結』三七頁。
- (6) 『蓮盛鈔』には「一字不説」について述べ「禪宗云、法華宗は不立文字、義を破す。何故ぞ佛は一字不説と説給哉。答、汝楞伽經文を引歟。本法自法の二義を不_レ知歟。不_レ學可_レ習。其上於彼經、者未_レ顯眞實被_レ破畢。何_レ爲_レ指南。問云、像法決疑經云、不見_レ如來說。一句法云云。如何。答、是常施菩薩言也。法華經、菩薩聞_レ是法、疑網皆已除、千二百羅漢、亦當_レ作佛と云。八萬菩薩も千二百羅漢も悉皆列座し、聽聞隨喜す。常施一人は不見_レ見。可_レ依_レ何_レ說。」(定二二頁)とあるが、ここにみえる文にも『注法華經』に注記されるものがある。(説法品第二〔開經六九〕『像法決疑經』、〔開經一四八〕『楞伽經』)。